

公益社団法人砥粒加工学会 北陸信越地区部会報告

平成 30 年度 第 1 回研究・見学会を終えて ～佐渡精密株式会社（新潟県佐渡市）～

1. はじめに

去る 7 月 6 日（金）に北陸信越地区部会の企画として、第 1 回研究・見学会が新潟県佐渡市にある佐渡精密株式会社において開催された。

廃校となった中学校に 35 年前に移転し、黒板や板張りの床や窓枠など、ほぼオリジナルの状態で利用されている会議室で、研究・見学会が行われた。講演会の様子を以下に報告する。

2. 講演会

講演会では佐渡精密（株）社長の末武和典氏より会社紹介＆技術紹介を、新潟県工業技術総合研究所センター長の相田収平氏より「航空機向け難削材の加工技術と新潟県の航空機産業への取り組みについて」と題してご講演を賜った。

佐渡精密（株）は金属精密部品の加工と佐渡市を中心として医療機器や OA 機器の販売・保守事業も行っている。金属精密部品の分野では、かつて OA 機器の部品加工がメインであったが、現在では医療機器、航空機関連部品の製造にシフトしているとのことであった。これらの加工技術の蓄積は、おもに産学官連携によって培われたもので、製造業にとって地理的に不利になるであろう佐渡市という地においても、他社にはないポリシーと優れた加工技術によって、継続的に成長している技術革新のポイントは大変興味深かった。

次の講演では、航空機産業に新規参入する目的や困難さの解説から始まり、超耐熱合金の加工における加工条件選定のコツや、新素材であるチタンアルミ合金の加工事例、高圧クーラントを用いたドリル加工による高能率加工の事例など、航空機関連での最新技術を数多く紹介していただき、大変有意義な講演会となった。

3. 見学会及び技術交流会

見学会では、旧校舎に設置された多くの最新の加工機、計測器やトヨタ生産方式が導入された生産システムについて見学した。そして、見学会終了後の総合討論では、時間をオーバーするほどの活発な質疑応答が行われ、積層造形技術導入に対する考え方、難削材の最適加工条件を導出する手順などの技術的な質問のほか、佐渡島内での採用状況や女性社員の比率が高い理由などの質問もあった。活発な討論は、18 時から開催された技術交流会でも引き続き行われた。

最後に、台風で刺激された梅雨前線によって大雨警報も発令される荒れた天候であったが、新潟～両津航路、直江津～小木航路ともに海況は良好で、主催者としては無事に実施できたことに胸をなで下ろしております。今回の研究見学会は、20 名ご参加頂きました。

（文責：磯部浩巳）



(a) 佐渡精密（株）末武和典氏



(b) 新潟工技総研 相田収平氏

図 1 講演会の様子



図 3 技術交流会を終えて